東奥日報　2014年（平成26年）11月5日　水曜日

丁寧にものづくり

青森一高養 ブランド「テイネイ」

文房具、バッグ、野菜など

8日、学校祭で販売

「テイネイ」ブランドの商品をPRする青森第一高等養護学校の生徒たち

青森市の青森第一高等養護学校（佐藤全克校長）は本年度、同校独自のブランド「テイネイ」を立ち上げ、知的障害のある生徒43人が商品づくりに取り組んでいる。ブランドのコンセプトは「丁寧なものづくり」。生徒たちが作業学習で心を込めて作った手工芸品や野菜などを商品とし、8日に学校祭で販売するほか、一部の商品は11月末から県立美術館でも販売する。（大友麻紗子）

同校のブランドづくりは、県教委の「外部人材を加えたセンター的機能強化事業」の一環。県内で活躍するデザイナーや陶芸家ら4人をアドバイザーとして招き、今夏から進めてきた。

生徒たちの作業の実態に合わせつつ、おしゃれで商品価値の高いものを作ろうと、教員らとアドバイザーが検討を重ね、①牛乳パックを再利用した和紙に柿渋を塗って作る文房具②玄関に置けるコンパクトなベンチ③織物のバッグとランチョンマット―の3種類の商品を開発した。また、生徒たちが育てている大根や白菜などの野菜もブランドの商品の一つにした。

ブランド名は、生徒たちが一生懸命作業に取り組む姿から「テイネイ」と名付けた。商品に付けるロゴマークは、アドバイザーの一人の木村正幸さん（弘前市、デザイン工房エスパス代表）がデザイン。「丁寧」の意味のほか、文字を時計回りに「テイイネ」と読んで「手仕事っていいね」の意味も持たせた。

「テイネイ」ブランドのロゴマーク

織物を担当する大海麻美さん（1年）は「スイーツをイメージした淡い色合いにしている。糸が途切れたり見た目が悪くならないように気をつけている」と話す。再生紙を使った本カバーや名刺入れなどを作っている梅田雄生君（同）は「製品になるように何度も柿渋を塗っている。お仕事で使ってもらえそう」と商品をアピールする。

佐藤校長は「学校独自のブランドを作ることで、生徒の製作意欲が湧いたり、責任感が生まれると思う。コツコツ根気強く、丁寧に作業できる生徒たちの力を商品から感じてほしい」と話した。

8日の学校祭「めいせい祭」で生徒たちが「テイネイ」ブランドを発表し、販売コーナーを設けるほか、再生紙を利用した文房具は11月末から県立美術館のミュージアムショップで販売される。

この画像は当該ページに限って
東奥日報社が利用を許諾したものです。